

いちのみや おサイフ事情

2023（令和5）年度の歳出決算額をひとりあたりにすると**35万5千円**です。
分野ごとに対象者ひとりあたりの金額をみると…

防災・安全

1.6万円 ±0万円
(±0%)

防災・安全に係る経費	61億8,019万円
人 口	37万7,661人

大雨対策として大平島公園と多加木公園の地下に雨水を貯める施設を作る工事を進めました。



障害者福祉

73.3万円 +4.8万円
(+7.0%)

障害者福祉に係る経費	152億7,782万円
障害者手帳所持者数	2万840人

障害者グループホームや就労継続支援サービスの需要増加に対応しました。



2023（令和5）年度 決算

市の決算額ひとりあたり

35.5万円 2022年度と比較して
-1.2万円
(-3.3%)

2023年度 一般会計歳出決算額	1,340億1,710万円
人 口	37万7,661人

こども・子育て

67.5万円 +1.6万円
(+2.4%)

こども・子育てに係る経費	310億4,791万円
14歳以下人口	4万5,972人

小中学校の全普通教室への電子黒板の設置を終えました。

公立保育園の保護者の利便性と保育の質を向上させるため、おもちゃのサブスクやICTシステム（アプリによる欠席連絡や電子連絡帳など）を導入しました。



高齢者福祉

7.1万円 -0.4万円
(-5.3%)

高齢者福祉に係る経費	73億1,716万円
65歳以上人口	10万3,585人

高齢者の外出を支援するタクシー利用券の利用回数が増加しました。

2022年度に特別養護老人ホームの建設補助を行ったことから、全体としては減少しました。



※該当経費に伴う歳入は加味していません。対象者数は2023年度実績または2023年度末時点で把握している数値です。

市は、予算の「見える化」を進めています。事業の有効性を測るための指標であるKPIを導入し、事業のコスト及び対象者あたりの経費を公開しています。

詳しくは、市ウェブサイトをご覧ください。 **ID** 1054756

※ **ID** は市ウェブサイトのページID番号です。市ウェブサイト内の検索ボックスに入力してください。

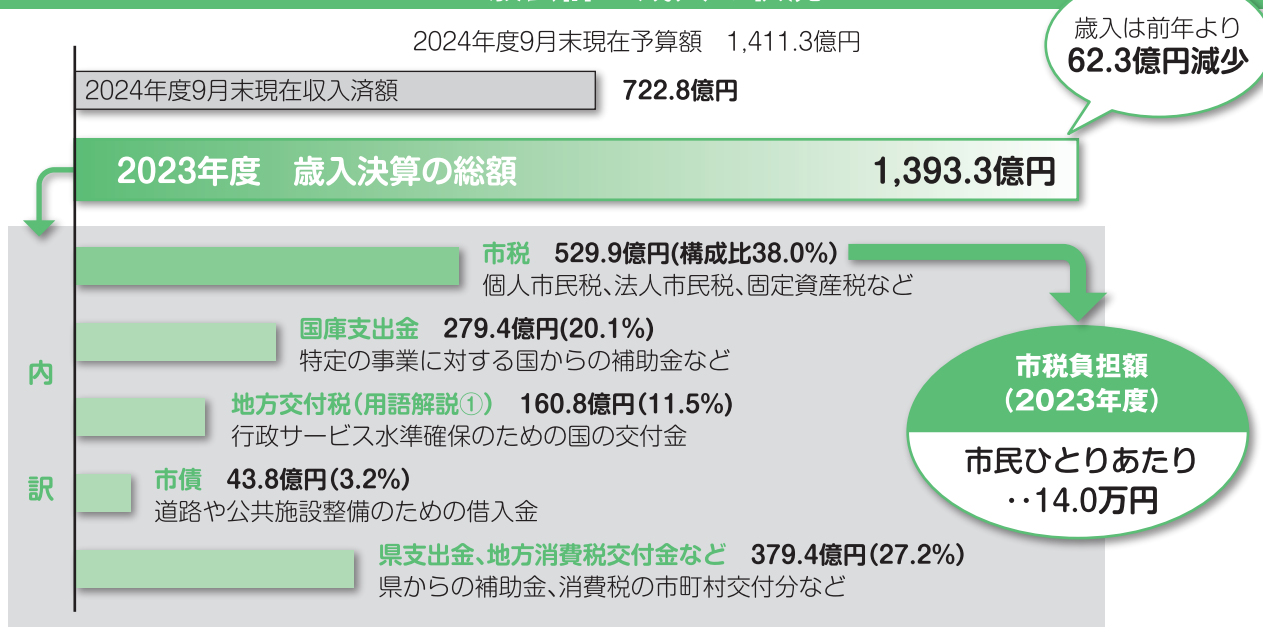
2025年1月 発行

いちのみや 財政の状況

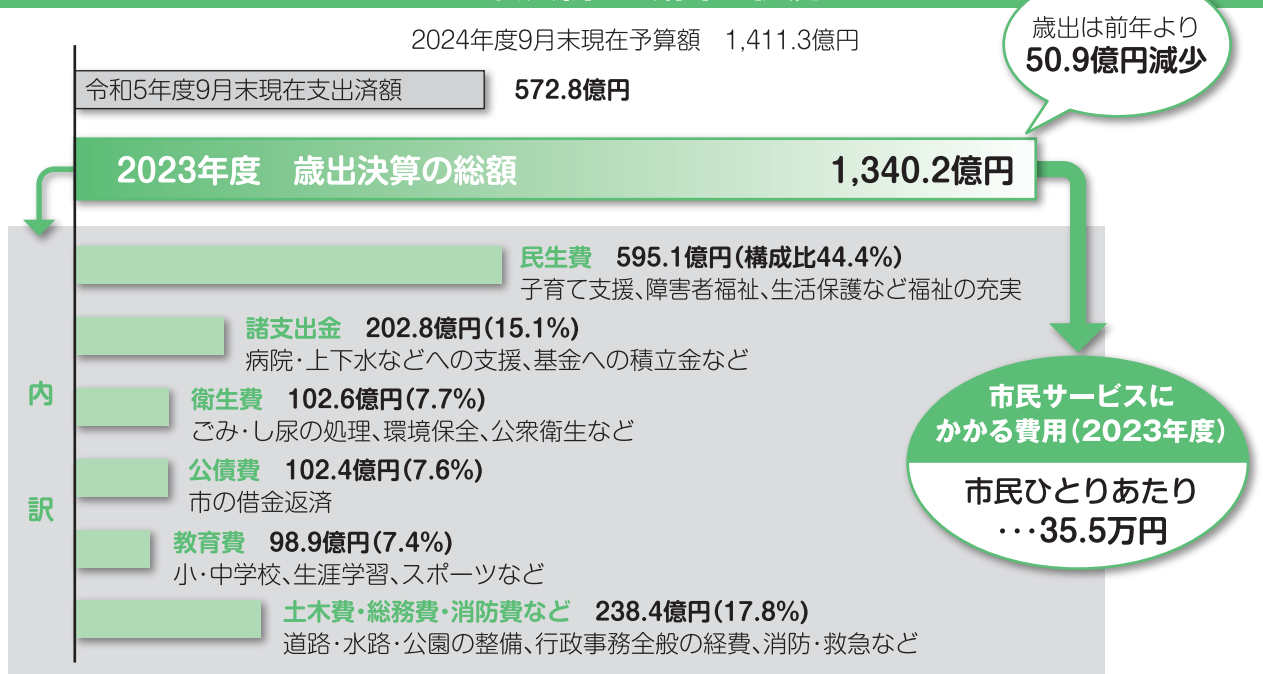
～2023年度決算と
2024年度上半期執行状況～

「財政状況」の公表に関する条例の規定により、2023年度決算状況と2024年度上半期（4月1日から9月30日まで）の財政状況をお知らせします。詳しい情報は、市ウェブサイト [ID 1015044](#) をご覧ください。

一般会計 歳入の状況



一般会計 歳出の状況



2023年度の決算額は、前年度に比べ、歳入は約62.3億円、歳出は約50.9億円減少しました。
歳出の主な増減費目は、以下のとおりです。

- 民生費 579.2億円→595.1億円(+15.9億円)…価格高騰重点支援給付金の増など
- 公債費 99.9億円→102.4億円(+2.5億円)…臨時財政対策債の元利償還金の増など
- 衛生費 144.7億円→102.6億円(-42.1億円)…自宅療養者等への医療提供事業交付金の減など
- 諸支出金 220.4億円→202.8億円(-17.6億円)…財政調整基金積立金の減など

特別会計 2023年度決算の状況

最 終 予 算 額	歳 入 決 算 額	歳 出 決 算 額
744億8,400万円	743億9,030万円	734億2,348万円

※国民健康保険事業・後期高齢者医療事業・介護保険事業・公共駐車場事業・外崎土地区画整理事業・母子父子寡婦福祉資金貸付事業の合算

企業会計 2023年度決算の状況

企業会計では収支を2つに区分します。料金収入や施設の維持管理費など営業活動による収支を収益的収支といいます。また、施設の建設改良費やそのための借入金など資産の取得等に関する収支のことを資本的収支といいます。

会 計 名	収 益 的 収 支		資 本 的 収 支	
	収 入 決 算 額	支 出 決 算 額	収 入 決 算 額	支 出 決 算 額
病 院 事 業	264億3,425万円	268億1,607万円	3億4,505万円	16億865万円
水 道 事 業	54億624万円	51億8,045万円	21億8,304万円	42億3,295万円
下 水 道 事 業	81億8,109万円	80億3,183万円	49億1,420万円	84億3,201万円

2023年度の目的税等の使いみち

目的税とは、特定の目的のために使うことが定められている税のことです。一宮市の場合、事業所税・都市計画税・入湯税が該当します。また、消費税の一部は、県を通じて市へ交付金として配分されますが、その一定割合については、社会保障費に充てることが定められています。市では、これらの目的税等を下記の事業に充てています。

事業所税・都市計画税の使いみち

対 象 事 業	事 業 所 税	都 市 計 画 税
合 計	12億7,740万円	30億3,072万円
教育施設・文化施設の整備 ・小中学校施設整備事業 （外壁塗装・屋上防水ほか） ・尾西市民会館の改修 ・公民館の改修 〈向山・大和〉 など	7億7,200万円	—
道路・水路・公園の整備 ・道路の舗装や側溝の整備 ・用排水路の整備 ・公園の管理（管理委託・施設修繕）	2億4,151万円	10億1,146万円
下水道の整備 ・下水道環境の整備事業関連	1億1,821万円	19億3,536万円
福祉施設の整備 ・児童館の整備〈萩原・三条・黒田〉 ・保育園施設の整備 〈丹陽南・東五城ほか〉 など	7,669万円	—
その他（土地区画整理など）	6,899万円	8,390万円

教育施設・文化施設の整備



道路・水路・公園の整備



下水道の整備



福祉施設の整備



地方消費税交付金 （社会保障財源分）の使いみち

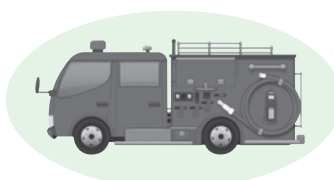
（2019年10月の消費税率引上げによる地方の増収分）

対 象 事 業	金 額
合 計	52億7,419万円
社 会 福 祉 （子育て支援など）	27億256万円
社 会 保 険 （医療・介護保険など）	18億4,155万円
保 健 衛 生 （市民病院など）	7億3,008万円

入湯税の使いみち

対 象 事 業	金 額
消防車両の整備	26万円

水槽付消防ポンプ 自動車の更新



いちのみや 財務書類

一宮市では、民間企業のような「発生主義」や「複式簿記」の考え方を取り入れた財務書類を作成しています。財務書類では、資産・負債の状況や、現金収支を基礎とした制度では数値化していなかった減価償却費などを把握し、より詳細に市の財政状況が分析できます。財務書類は、一般会計を主体とする「一般会計等」に加え、特別会計・公営事業会計や第三セクター等関係団体も含めた「全体会計」「連結会計」があり、今回はその一部を掲載しています。

詳しい内容は市資料コーナー（本庁舎、尾西・木曽川庁舎）や市ウェブサイトをご覧ください。 ID 1003836

貸借対照表（バランスシート）（2024年3月31日現在）

年度末に所有する財産（資産）の総額とその財源がこれから負担するもの（負債）なのか、すでに負担したもの（純資産）なのかを示すものです。

下の表の一般会計等を例に取ります。資産の総額は4,729億円です。この内訳は、これから負担しなければいけない金額が1,180億円、これまでに負担した金額が3,549億円ということがわかります。

（単位：億円）

資 産			負 債		
市が保有している財産			これからの世代が負担する借金		
	一般会計等	連 結 会 計		一般会計等	連 結 会 計
1. 公共資産（施設） 市庁舎、学校、道路、公園、病院、上下水道施設など	4,053	6,086	1. 短期の負債 1年以内に支払うもの(2024年度に支払う市債の元金など)	137	294
2. 投資など 基金、出資金など	524	137	2. 長期の負債 1年以上先に支払うもの(2025年度以降に支払う元金など)	1,043	2,543
3. 流動資産 (1) 現金預金 (2) 未収金など	152 72 80	463 279 184	負債の総額	1,180	2,837
			純資産 これまでの世代がすでに負担したもの	一般会計等	連 結 会 計
			純資産の総額	3,549	3,849
資産の総額	4,729	6,686	負債と純資産の総額	4,729	6,686

貸借対照表に関する指標

指 標 名	計 算 方 法	一 宮 市	中核市平均値
純資産比率(%)	純資産の総額÷資産の総額	75.1	70.9
市民ひとりあたり資産額(万円)	資産の総額÷人口	125.2	150.3
市民ひとりあたり負債額(万円)	負債の総額÷人口	31.2	43.8

※一宮市は2023年度、中核市平均値は2022年度の値です。

中核市については用語解説②参照

純資産比率は市が保有している資産に占める純資産（これまでに負担済みのもの）の割合です。

一宮市の純資産比率は75.1%と中核市平均値70.9%より高い値となっており、一宮市は将来世代への負担が比較的小さい財政状態にあるといえます。

一方で、一宮市の市民ひとりあたりの資産額、負債額についてみると、いずれも中核市平均値より少ない金額となっています。

行政コスト計算書 (2023年4月1日～2024年3月31日)

行政コスト計算書とは一宮市の1年間の活動をコスト(経費)という側面から示したものです。

福祉サービスに係る経費などの社会保障費や実際の支出が発生しない減価償却費など普段から行政サービスに使う費用(経常費用)と、そのサービスの対価として収入する使用料や手数料など(経常収益)を差し引きすると、純経常行政コスト(市税などで市が負担する金額)が示されます。一般会計等では1,214億円になります。

(単位：億円)

	一般会計等	連結会計
経常費用	1,259	2,862
1. 人にかかるコスト 職員給与、退職金など	224	380
2. 業務にかかるコスト 施設修繕費、光熱水費、減価償却費など	379	697
3. 給付にかかるコスト 補助金、社会保障費など	656	1,785
経常収益	45	405
受益者負担(利用者が支払う使用料・手数料)など	45	405
純経常行政コスト(経常費用 - 経常収益)	1,214	2,457

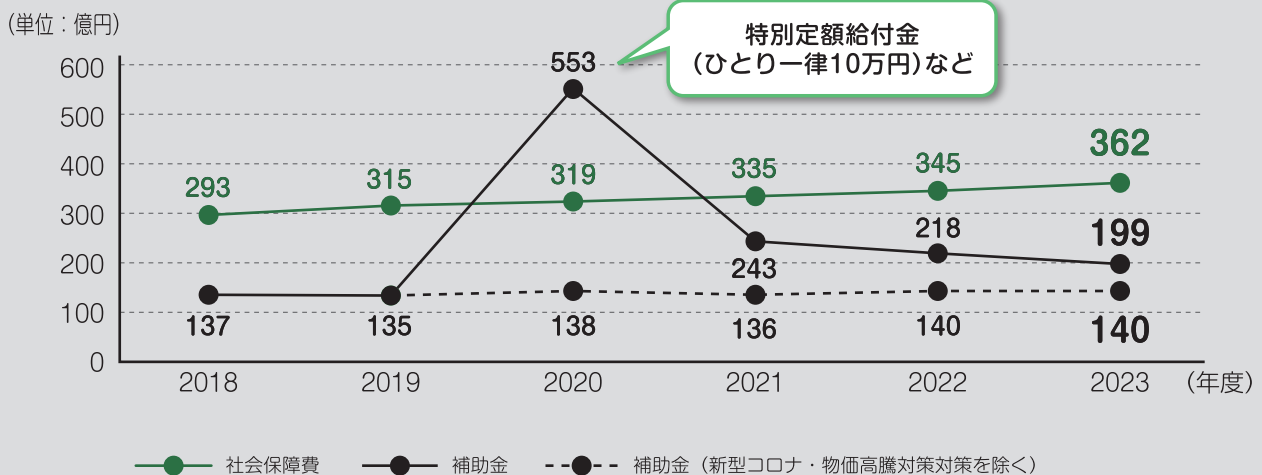
- 補助金…政策目的のため団体や個人へ支出する経費(例：七夕まつり協進会負担金、町内会運営交付金、自転車ヘルメット購入補助金)
- 社会保障費…社会保障給付として、こども、高齢者、障害者などを援助するための経費

行政サービスの費用から受益者負担(使用料・手数料収入)を差し引いた純経常行政コストは市税などでまかなわれています。

下の黒色の折れ線グラフは、補助金の推移です。一方、点線の折れ線グラフは新型コロナ・物価高騰対策に関連する補助金を除いた推移です。特に2020年度は、特別定額給付金(ひとり一律10万円)をはじめ、大規模な新型コロナ対策が展開されたため大きく増加していますが、以降は新型コロナの落ち着きとともに減少しています。

これに対して、緑色の折れ線グラフは、社会保障費の推移です。新型コロナの前後で大きな変動はありませんが、医療費などの増加により、少しずつ増え続けていることがわかります。

補助金と社会保障費の推移



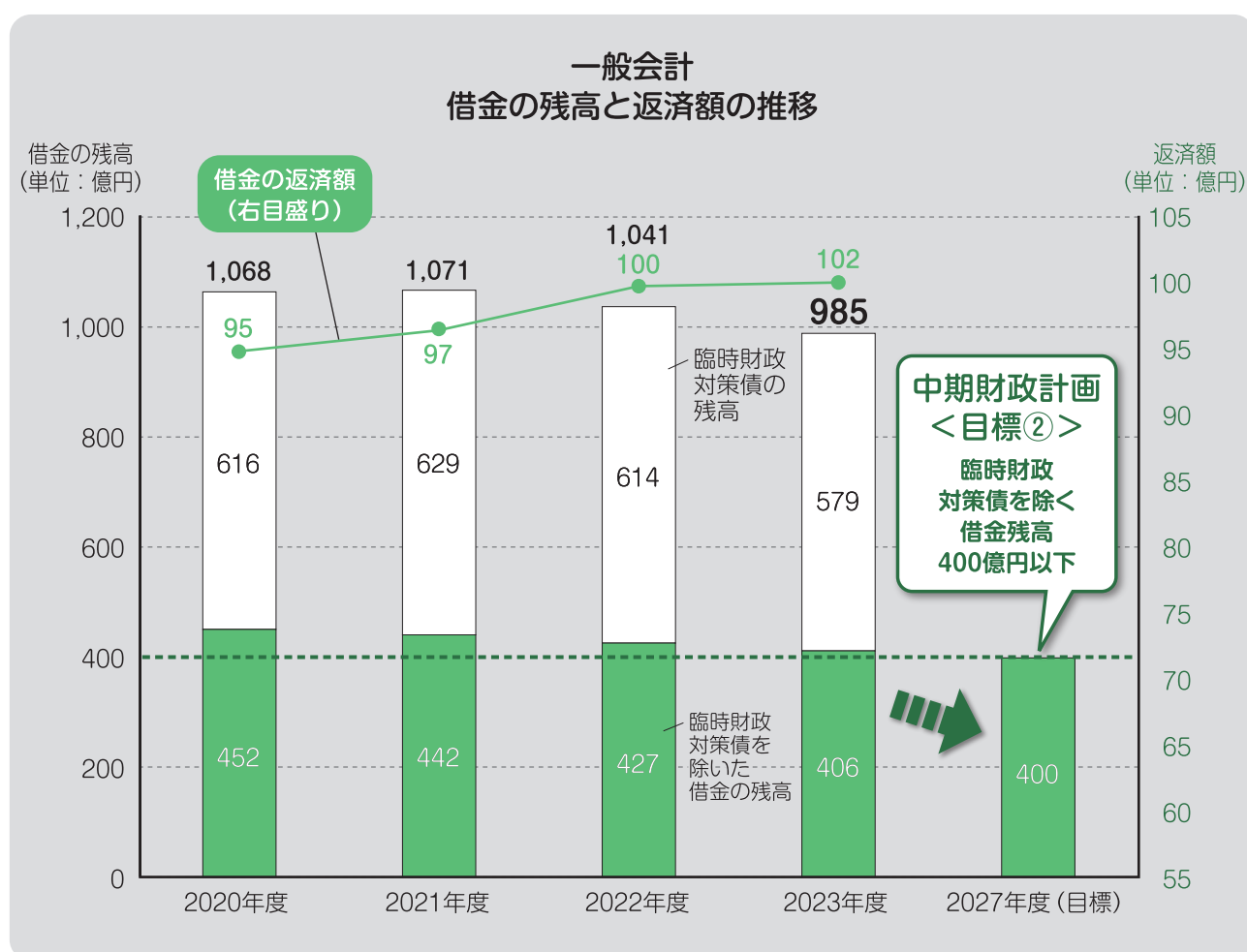
いちのみや 市債(借金)

学校や道路、大型施設の整備には多くの費用が必要となるため、一宮市では借金をして資金を調達しています。これを「市債」といいます。整備された施設は長い間利用されるものなので、借金である市債を長い期間(最長30年)で返済することで、将来の世代まで平等に負担することにもつながります。

下の棒グラフは一般会計の借金の残高です。緑色の棒グラフは、臨時財政対策債(用語解説③)を除いた借金の残高を示しています。2018年度以降、減少に転じており、2023年度は2022年度から21億円減少しました。

折れ線グラフは、借金の返済額で、元金と利子の総額です。近年は、借入期間が比較的短い10年の借金の割合が増加していることから、各年度の返済額は増加しています。当面はこの傾向が続くことが見込まれますので、引き続き計画的に返済していきます。

臨時財政対策債を除いた借金の2023年度残高は406億円ですが、中期財政計画(P. 8参照)のもと、2027年度末に400億円以下になるよう取り組みを進めます。



毎年の収入(市税・地方交付税・使用料など)に対する借金の残高

借金の残高 ÷ 2023年度経常収入 =

0.9年

(2022年度
1.0年分)

毎年の支出(人件費・維持補修費・委託料など)に占める借金の返済額の割合

借金の返済額 ÷ 2023年度経常支出 =

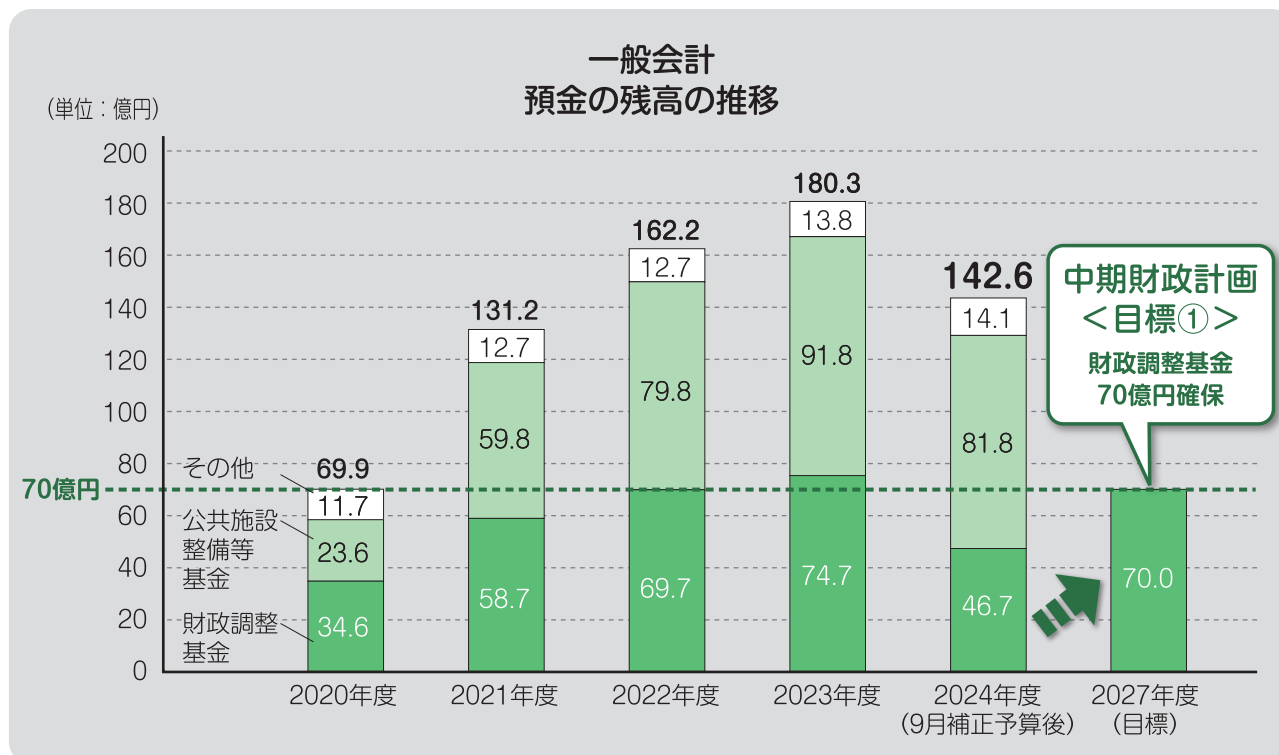
9.8%

(2022年度
9.7%)

いちのみや 基金(預金)

一宮市では、特定の目的のために預金を積み立てたり引き出したりしています。これを「基金」といいます。下のグラフは一般会計の預金の残高です。公共施設整備等基金は、古くなった公共施設の建替え・改修に備えるもので、2023年度においては12億円を積み立て、91.8億円となりました。

また、収入の不足を補ったり、災害など不測の事態に備える財政調整基金は、2024年度当初予算において、財源不足を補うため40億円を取り崩し、残高が落ち込んでいるものの、2024年9月補正予算で12億円の積み立てを予算計上しました。2024年度以降は、中期財政計画の目標(2027年度末に残高70億円)の達成に向けて取り組んでいきます。



毎月の収入(市税・地方交付税・使用料など)に対する預金の残高

$$\text{預金の残高} \div (\text{2023年度経常収入} \div 12 \text{か月}) = \mathbf{2.0 \text{ か月分}} \quad \left(\begin{array}{l} \text{2022年度} \\ 1.8 \text{ か月分} \end{array} \right)$$

用語解説

① 地方交付税

すべての地方公共団体が一定の行政サービス水準を維持できる財源を保障するために国税を一定の基準によって再配分する制度です。

② 中核市

地方自治法により定められた、政令で指定する人口20万人以上の都市です。一宮市は、地域の実情に合ったより質の高い行政サービスを提供するため、2021年度に施行時特例市から中核市へ移行し、愛知県から保健所業務などの権限移譲を受けました。愛知県内では、豊田市・豊橋市・岡崎市に次いで4番目で、尾張地方では初の中核市です。

③ 臨時財政対策債

本来国から交付されるべき地方交付税の不足分を賄う市債です。元金と利子の返済額全てが後年度の地方交付税で手当てされます。

いちのみやの家計簿

一宮市の1年間を500万円の家計にあてはめたら・・・

一般会計の2023年度歳入決算額1,340億円を年間500万円の家計に置き換えてみました。

家族が働いて得た収入は**334万円**

収 入 (入ってきたお金)	
給料(市税)	190万円
諸手当(地方交付税など)	104万円
パート収入(使用料・手数料など)	40万円
預金引き出し(基金の取崩し)	10万円
貸したお金で返してもらった分(貸付金返済額)	4万円
親からの援助(国・県からの補助金)	136万円
住宅・車のローン借入(市債)	16万円
合 計	500万円

コロナ対策に係る国・県の補助金等が減少

市民税、固定資産税などが増加

ローン残高(市債残高)	354万円
預金残高(基金残高)	65万円

生活費は**392万円**

支 出 (出ていったお金)	
食費(人件費)	77万円
医療費・社会保険料(扶助費)	154万円
光熱水費、被服費など(物件費・補助費等)	108万円
車や家財の修理代(維持補修費)	3万円
子どもたちへの援助(繰出金)	50万円
ローン返済(公債費)	37万円
家の増改築・車の購入など(投資的経費)	33万円
貸したお金(投資及び出資金・貸付金)	4万円
預金(積立金)	15万円
合 計	481万円

繰 越 金

カード引去確定額(繰越事業費)	2万円
財布残金(2024年度予算繰越分)	17万円
合 計	19万円

2023年度はお財布に19万円残りました。
これは2024年度以降の支出に使われます。

一宮市中期財政計画と目標

一宮市では将来世代の負担を軽減し持続可能な未来に向けて「一宮市中期財政計画」を策定しています。2022年度で計画期間を終えた前期計画の成果や今後の収支見込みなどを踏まえ、2023年度～2027年度を計画期間とする新たな「一宮市中期財政計画」を定めました。

※「一宮市中期財政計画」は、一宮市ウェブサイトでご覧いただけます。ID 1023829

目 標
(2023年度～2027年度)

- ①財政調整基金残高70億円を確保します
- ②市債残高(臨時財政対策債を除く)を400億円以下に圧縮します

目標の達成に向け、受益者負担の適正化や市の財産の有効活用による財源の獲得など、歳入の確保に努めるとともに、「スクラップ・アンド・ビルド」による事業の見直しや公共施設の縮充による維持管理経費の抑制など歳出の削減に取り組んでいきます。

いちのみやの家計簿の補足説明

市の支出を性質別に分類したときに用いられる経費が、人件費、扶助費、公債費などです。これらの用語は、家庭では普段使われていないものが多いことから、この「家計簿」では人件費を食費、扶助費を家族の医療費・社会保険料、公債費をローン返済などのように置き換えています。それぞれの経費の内容は次のとおりです。

経 費 の 種 類	内 容	
人 件 費	義 務 的 経 費	職員の給料や手当、議員報酬などの経費
扶 助 費		生活困窮者、児童、老人、障害者などを援助するための経費
公 債 費		借入金の元金や利子を支払う経費
物 件 費	消耗品費や旅費、公共施設の運営費などの経費	
維 持 補 修 費	公共施設などの保全のための経費	
補 助 費 等	団体などへの補助金、保険料、講師等への謝礼金、各種事業への負担金などの経費	
繰 出 金	国民健康保険事業や介護保険事業などの特別会計に支出する経費	
投 資 的 経 費	道路、公園、学校などの公共施設を整備するための経費	
積 立 金	収支不足を補う基金や、公共施設の建設など、特定の目的のための基金への積立金	
投 資 及 び 出 資 金	病院事業や上下水道事業への出資などのための経費	
貸 付 金	法令や条例などにに基づき、直接又は間接に貸付をする経費	